

## 「患者目線の医療政策」実現へ、PPCIPを本格稼働 INES、来年の骨太決定前に提言

2021/10/5 16:54

新時代戦略研究所（INES）は5日、患者目線での革新的な医療政策の実現を目指すパートナーシップ（PPCIP）を本格稼働させた。患者団体、医療従事者、アカデミアなどステークホルダーが参加して研究や議論を開始、2022年の政府“骨太方針”に反映されるよう提言をまとめたい考えだ。さまざまな立場の意見を集約して政策提言するのは、医療関連では初めてとみられる。

全国に多数の患者団体がある中で、疾患領域を超えて意見集約する場はこれまでなく、政策担当者に届ける機会も少なかった。PPCIPは患者が主体となって医療のあるべき姿を考え、政策に反映させようとするもの。医療従事者やアカデミアとパートナーシップを組み、最適な医療制度の構築を目指している。

この日は、疾患横断的に参加した患者団体の各代表者が、PPCIP参加の意義や活動の現状を紹介した。医療政策に対しては患者目線の評価を反映する仕組みが不足していることを指摘。「診療報酬や薬価制度は分かりにくい。課題を検証し改善策を提案したい」（辻邦夫・日本難病・疾病団体協議会常務理事）、「国の目指す方向が見えない」（眞島喜幸・パンキャンジャパン理事長）などの意見が出た。

また、「国の審議会などは（議論の）流れが決まっている。もっと早い段階から患者・家族が参加できる仕組みが必要」（鈴木森夫・認知症の人と家族の会代表理事）だとする見方や、厚生労働行政の縦割りによる全体的なビジョンの不足を訴える意見もあった。一方で患者側にも医療リテラシーが向上していないといった課題があるとし、教育の必要性が指摘された。

パネルディスカッションでは、宮田俊男・早稲田大理工学術院教授・医療法人DEN理事長や小黒一正・法政大経済学部教授が、新型コロナウイルス感染症による世界の医療政策の変化を説明。デジタルトランスフォーメーションを活用した政策展開の重要性を強調した。

PPCIPの今後のスケジュールは、来年の政策提言や意思決定者などへのプロジェクトの周知、さらに24年までに医療政策プロセスへの患者参加機会の創出、患者の声が盛

り込まれた医療政策の実現を目指す。

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.  
Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.  
Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう